



Newsletter 2024 No.1

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第66号 発行 2024年8月9日

◇学会事務局：杏林大学外国語学部 古本泰之

〒181-8612 三鷹市下連雀 5-4-1 杏林大学外国語学部内

Tel 0422-47-8000 (代表) Fax 0422-47-8077 (共用)

email: jimujsthe.org ◇学会 URL : <https://jsthe.org>

◇編集・発行人：米盛安奈

(oshimaan@daishodai.ac.jp)

【第23回全国大会報告】

第23回全国大会を、2024年3月9日(土)・10日(日)の2日間にわたり「ポストコロナのグローバル人材育成を考える」をテーマにハイブリッド型(リアル会場：北星学園大学)で開催しました。リアル会場・オンライン会場合わせておおよそ80名程度の参加者を迎えて盛況のうちに終了致しました。

初日は「研究報告・教育実践報告」「シンポジウム」「懇親会」を行いました。「研究報告・教育実践報告」は、今回より学会国際化の一環として英語での発表セッションを設けたこともあり、発表件数は32件と昨年度より大幅に増加しました。「シンポジウム」では、基調講演をセントラルフロリダ大学ローゼン・ホスピタリティ経営学部の原忠之氏にお願いし、「観光客年間7,400万人！フロリダ州オレンジ郡から見た日本観光の今後」をテーマにお話いただきました。また、北海道新聞社ビジネス開発本部/プロデューサーの寺町誠志氏より「グローバル人材を目指して：UCF留学を通してリスキリング」と題した話題提供がありました。これを踏まえ、森越京子氏(北星学園大学短期大学部/本学会理事)のコーディネートによるパネルディスカッション「ポストコロナのグローバル人材育成を考える」を、寺町氏、大嶋弥生氏(JR北海道ホテルズ株式会社)、グレッグ・ターナー氏(HTM北海道ツーリズムマネジメント)、中谷知記氏(北海道ニセコ高等学校)をパネリストに迎えて開催し、基調講演講師の原氏よりコメントをいただきました。再開した懇親会と合わせて、インバウンドが再び活性化する中でのグローバル人材の育成について貴重な学びの時間となりました。シンポジウムの内容は機関誌に収録予定です。

2日目は、引き続き「研究報告・教育実践報告」を行った後、「教育実践(高大連携)」「観光ホスピタリティ教

育の国際化(研究・教育・学会の国際化)」「地域観光教育(地域における観光人材の育成)」をテーマとしたワークショップを実施しました。いずれのプログラムも観光・ホスピタリティ教育を考える上で示唆に富んだ内容となり、活発な議論がかわされました。

なお、第24回全国大会は、2025年3月8日(土)～9日(日)に立命館大学大阪いばらきキャンパスにおいて開催予定です。

【研究会案内】

学会では年内に2回の研究会を予定しております。参加方法などは後日お知らせ致します。ふるってご参加下さい。

- 第1回研究会：2024年9月7日(土)15:00～17:00(予定)

追手門学院大学・総持寺キャンパス

テーマ：教育実践報告・観光ビジネス実践報告

ポストコロナ期におけるインバウンド観光の現状と課題を共有し、会員の皆様における教育の実践的な取り組みを相互に学ぶことで、より実効性のある観光教育の在り方を探っていきたいと考えています。

- 第2回研究会：2024年11月16日(土)15:00～17:00(予定)

明海大学浦安キャンパス

テーマ：観光業におけるキャリアパスの形成と専門日本語/英語教育(仮)

基調講演：阿部佳氏(明海大学)

【理事会報告】

<2023年度第5回理事会>

日時：2024年1月20日(土)13:00～14:30

オンライン会議システムZoom

出席：藤田、中村、福本、板垣、岩田、大島安奈、坂本、澁谷、鈴木、千葉、中井、難波、野口、古本、森越、峯俊

欠席：大串、鈴鹿、丹治、高橋、橋本、大島知典、森園
[報告事項]

議事1. 会務報告(各委員会・事務局より)

編集委員会の中村委員長より機関誌第17号の進捗状況について説明がありました。

議事2. 「2024年度グループ研究助成」募集について

新規事業委員会の千葉委員長より、2024年度グループ研究助成の募集スケジュールについて説明がありました。申請受付期間は1月22日～2月29日です。次年度からは採択者名も公表するよう意見がありました。

議事3. ウェブサイトの改訂作業について

総務委員会の古本委員長よりウェブサイト改定作業の進捗について報告がありました。併せて英文対応の範囲について確認がありました。

[審議事項]

議事1. 第23回全国大会について

開催校の森越理事より第23回全国大会について、登壇者が確定したこと、懇親会場及び教室を予約済みであることが報告されました。

学生アルバイトを手配することが了承されるとともに、1人当たりのアルバイト代ならびに、学生アルバイトと理事会出席者の弁当を手配する必要がある事が確認されました。加えて、全国大会のオンライン対応に当たる理事も確認されました。

編集委員会の中村理事より研究報告・教育実践報告への申し込みが36件あること、2日目にも研究報告・教育実践報告の時間を設定する必要があることが報告されました。会場の割り振り及び報告順は実行委員会に任せられることになりました。

大会参加費について検討されました。正会員・名誉会員は3,000円、一般非会員：2日間参加は4,000円、一般非会員：1日参加（3月9日）及び一般非会員：1日参加（3月10日）はいずれも2,000円です。準会員・非会員の大学院生・学部生は無料です。加えて、北海道内の高校教員の参加費についても議論され、北海道内の高校教員のみならず、小中学校を含めた教員については参加費を無料とすることになりました。

議事2. 編集委員会所管の規定の変更について

編集委員会の中村委員長より、編集委員会が所管する規定の変更案について説明があり、いずれも了承されました。

議事3. 研究事業委員会案件

研究事業委員会の岩田理事より、研究事業委員会が実施したアンケートの結果が報告されました。アンケート結果は今後理事会メンバーに共有される予定です。

年間事業計画について検討され、2024年度全国大会の会場は理事会の判断で決定する方針が確認されました。藤田会長より、2023年度総会の会場候補について説明がありました。3月理事会にて会場を決定します。

議事4. 入退会審査（敬称略）

1件の入会が承認されるとともに、1件の退会が報告されました。

議事5. その他

事務局の古本理事より、銀行の手数料が上がっていることへの対応を進めていることが報告されました。併せて、1月31日にクロネコDM便が廃止され、2月1日よりクロネコゆうメールが開始されることにより、封筒の変更や会員のメーリングリストへの誘導など、対応が必要であることも報告されました。

<2023年度第6回理事会>

日時：2024年3月9日（土）11:00～12:00

リアル会場：北星学園大学

オンライン会場：会議システム Zoom

出席：藤田、福本、板垣、岩田、大串、大島安奈、鈴鹿、鈴木、千葉、中井、難波、古本、森越、峯俊、丹治、野口、橋本

欠席：中村、坂本、森園、澁谷、高橋、大島知典

[報告事項]

議事1. 会務報告（各委員会・事務局より）

機関誌第17号の進捗状況について：鈴木編集副委員長

① 大会の要旨集の完成が完了し、全国大会で配布されることが報告されました。

② 機関誌17号の編集がほぼ完了していることが報告されました。

議事2. 2023年度全国大会について：森越全国大会実行委員長

英語での発表が増加し、例年の3倍ほどの発表数となりました。

[審議事項]

議事1. 2024年度グループ研究助成結果について：千葉新規事業委員長

4件の申し込みがあり、今後の予定として、3月下旬にメール審議、3月29日に採択結果通知、4月1日以降、採択グループへの振込となることが報告されました。また、採択の件数については、1件または2件にすることを決定しました。

議事2. 今後の研究会などについて：鈴鹿研究事業委員長

2024年度の事業計画は、「観光言語・コミュニケーション」を核とすることが決定されました。総会について報告がありました。日時は、2024年6月8日（土）14:15-17:10、会場は城西国際大学紀尾井町キャンパス、内容は「観光人材育成と観光言語」であることが確認されました。また、基調講演・シンポジウムの登壇者については調整中である旨が報告されました。

第1回研究会について報告がありました。日時は2024年9月7日（土）、会場は長崎総合技術大学、内容は脱炭素と観光（SDGs）またはサステナブル・ツーリズムを基調とすることが確認されました。また、オンライン配信の実施が検討されました。第2回研究会について報告がありました。日時は2024年11月頃、内容は「観光業におけるキャリアパスの形成と専門日本語/英語教育（仮）」、基調講演は阿部佳先生、会場は明海大学で調整中であることが報告されました。

第24回全国大会の日程が2025年3月8～9日に決定しました。場所は立命館大学大阪いばらきキャンパス、内容は大阪万博に寄せることが検討されました。なお、学会のテーマが万博でありセンシティブな話題でもあるため、学会のスタンスや役割を継続的に協議する必要性

が指摘されました。

議事3. 入退会審査・報告：事務局

1名の正会員の入会が審査され、書類に不備があり差し戻しとなりました。あわせて、1名の退会が報告されました。

議事4. その他

● 大阪万博における3観光学会の連携について：藤田会長

日本観光研究学会、日本観光経営学会、日本観光ホスピタリティ教育学会の観光系3学会が連携して、学生の大阪万博での活動を後押しすることが検討されました。

● 旅費補助について：事務局

理事が理事会の会場に発地から200kmを超えて参加する場合、その経費が研究費等で補われていない場合において、上限1万円の補助があることが確認されました。

● ウェブサイトの改訂作業について：事務局

業者への支払いが行われました。ドメインの変更を行わない可能性が出てきました。ウェブサイトの更新について今後進めていきます。

<2024年度第1回理事会>

日時：2024年5月16日（土）13:00～15:00

オンライン会議システム Zoom

出席：藤田、中村、福本、坂本、澁谷、鈴鹿、鈴木、千葉、難波、野口、古本、森越、米盛、高橋、大島、峯俊
欠席：板垣、岩田、大串、丹治、中井、橋本、森園

[報告事項]

議事1. 機関誌第18号投稿状況について（中村編集委員長）

編集委員会の中村委員長より、機関誌第18号の投稿状況について報告がありました。論文4本、教育実践報告2本の投稿があり、現在規定に基づき形式の審査を行っています。併せて、書評の文献を検討中です。

[協議事項]

議事1. 総会・シンポジウム(6/8)について

総務委員会の古本委員長より、資料に基づき2023年度事業報告、2023年度一般会計収支決算書、2024年度事業計画、2024年度一般会計予算について説明がありました。

研究事業委員会の鈴鹿委員長より、2024年度シンポジウムのプログラム案について説明がありました。基調講演者をブラッド・トウル氏（田辺市熊野ツーリズムビューロー）、話題提供者を金塚多佳子氏（日本カミーノ・デ・サンティアゴ協会代表）、田中直子氏（北星学園大学 短期大学部）とすることが提案され、承認されました。併せて基調講演者の旅費と謝金について検討され、了承されました。

研究事業委員会の鈴鹿委員長より、学会に参加する際、所属大学から旅費が支給されておらず、かつ運営上主要な役割についている場合に、学会から旅費の補助を可能

とする内規の変更が提案されました。これに対して、補助の対象となるケースの線引きや妥当性の確認方法など、今後の理事会で検討していくことになりました。その上で、今回のシンポジウムでは上記条件に該当する理事への旅費補助を行うこととなりました。

議事2. 新規事業委員会より（千葉新規事業委員長）

新規事業委員会の千葉委員長より、2024年度採択のグループ研究助成代表者からの共同研究者変更の申し出について、説明がありました。本件に対して、共同研究者数の規定に抵触しないかの確認がされるとともに、審査の公平性についての指摘がありました。併せて共同研究者の役割に関する規定作成の必要性が指摘されました。議論の結果、共同研究者の追加での対応が可能かグループ研究助成代表者に確認することになりました。

新規事業委員会の千葉委員長より、2023年採択のグループ研究助成の継続辞退について経緯の説明があるとともに、経費の処理方法について提案がなされ、承認されました。併せて、本件を踏まえ、グループ研究助成募集要項について、申請グループのメンバー構成の変更と研究代表者に不測の事態があった場合の対応に関する修正案が示されました。今後の理事会で引き続き検討していくことになりました。

新規事業委員会の千葉委員長より、グループ研究助成成果の取り扱いについて、2024年度募集では「本学会機関誌での研究報告（2年間の助成であっても単年度ごとの報告は義務）と本学会での発表（研究終了年度から1年以内を義務）の2点を義務」としているところを、全国大会での発表要旨を機関誌の投稿として認めることが提案され、次年度募集から適応することが承認されました。

議事3. 今後の研究会予定

研究事業委員会の鈴鹿委員長より、今後の研究会の予定について説明がありました。第1回研究会は2024年9月7日（土）に追手門学院大学で開催します。第1回研究会では、教育実践報告や観光ビジネス報告などをテーマに教育実践報告5件とパネルディスカッションを行う予定です。教育実践報告の発表者は本理事会後に募集します。

第2回研究会は、2024年11月16日（土）に明海大学の阿部佳氏を迎え、「観光業におけるキャリアパスの形成と専門日本語／英語教育」(仮)をテーマに明海大学で開催します。

議事4. その他

藤田会長より、観光経営学会から提案のあった万博に関する連携について、連携として当学会の名前を載せることはしないことが説明されました。

国際化ワーキンググループの藤田会長より2023年度全国大会での課題や反省事項について説明がありました。併せて、課題を踏まえた2024年度の取り組みとして、学会ウェブサイトの一部英語化、2024年度全国大会での

英語スタッフの増員、発表での英語キーワードの記載(任意)、発表内容の教育への限定、Newsletterでの観光関連国際会議に関する情報の発信が挙げられました。

総会、シンポジウムの開催方法について確認されました。総会とシンポジウムともにハイブリッドで開催します。

<2024年度第2回理事会>

日時：2024年6月8日(土) 11:00~12:00

リアル会場：城西国際大学東京紀尾井町キャンパス

オンライン会場：会議システム Zoom

出席：藤田、中村、福本、板垣、岩田、大串、鈴鹿、鈴木、野口、古本、森越、米盛、橋本、大島、峯俊、澁谷、丹治、難波、高橋

欠席：坂本、千葉、中井、森園

[審議事項]

議事1. 2024年度総会について

総務委員会の古本委員長より総会について、正会員の出席者が43名、委任状が37名であり、成立予定であることが報告されました。

次に、総会の議事次第(2023年度事業報告、2023年度決算報告、2024年度事業計画、2024年度予算計画)について、資料に基づき説明がありました。2023年度決算報告について、正会員の未納率の高さが課題であると報告されました。橋本監事より2024年度予算計画に対して、過年度の平均的な会費納付率に基づき会費収入の予算を立ててはどうかと提案がありました。

議事2. 次回研究会・理事会日程確認

第3回理事会・第1回研究会は2024年9月7日(土)に追手門学院大学総持寺キャンパスで開催されます。第1回研究会「研究実践報告」の発表者を募集中であり、6月7日現在1件の応募があることが報告されました。

第4回理事会・第2回研究会は2024年11月16日(土)に明海大学浦安キャンパスで開催されます。第2回研究会のテーマは「観光業におけるキャリアパスの形成と専門日本語/英語教育」(仮)です。

第5回理事会は2025年1月25日10:00からオンラインで開催することが決まりました。

第6回理事会・第24回全国大会を2025年3月8日(土)~9日(日)に立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催します。

議事3. 新規事業委員会より

藤田会長より2023年度グループ研究助成の研究継続辞退について、第1回理事会後の経緯及び今後の対応について説明があり、取消扱いについて承認しました。

併せて、再発防止策について検討を進めていることも報告されました。第3回理事会において、再発防止策を提示できるように進めると説明がありました。

議事4. 退会審査

正会員4名の退会が報告されました。うち1名について

は、本学会の名誉会員規程を満たすため、総会にて名誉会員に推薦することを検討することとなりました。

【総会・シンポジウム報告】

2024年度総会・基調講演・話題提供を、2024年6月8日(土)に実施しました。今年度はリアル会場を城西国際大学東京紀尾井町キャンパスに配置し、オンライン会場と合わせたハイブリッド形式で実施しました。

12:10より評議員会を開催し、評議員からは今後の学会が取り組むべきテーマにつき積極的なご提言をいただきました。13:00より総会(定数充足)を開催し、2023年度の事業報告・決算、2024年度の事業計画・予算について承認を得ました。

その後に約50名の参加者を迎えて「基調講演・話題提供」を開催しました。テーマは「観光人材教育と言語コミュニケーション」としました。まず、ブラッド・トウル氏(田辺市熊野ツーリズムビューロー)より、「持続可能な観光地を目指して~熊野古道の事例」と題した基調講演をいただきました。次に、金塚多佳子氏(日本カミーノ・デ・サンティアゴ協会)、田中直子氏(北星学園大学短期大学部)による多様な視点からの話題提供がなされ、その後に岩田聖子氏(大阪医科薬科大学/本学会理事)によるコーディネートの中で、今後の観光人材教育、特に言語コミュニケーションの面で検討すべき課題について会場との質疑応答も踏まえつつ議論を行いました。基調講演・話題提供の内容は機関誌に収録予定です。

【2024年度事業計画】2024年度総会にて承認

- 1) 年度内2回の全国集会開催
通常総会・シンポジウム：2024年6月8日(城西国際大学・一部オンライン)
第24回全国大会：2025年3月8日~9日(立命館大学・一部オンライン)
- 2) Newsletterの発行(7月、12月、3月の年3回予定)
- 3) 機関誌の発行(第18号：2025年3月発行予定)
- 4) 全国大会発表要旨集No.24の発行
- 5) 理事会の開催(5月、6月、9月、11月、1月、3月の年6回：開催方式などについては都度検討)
- 6) 広報委員会による普及活動(SNS更新、新規会員獲得事業検討[リーフレット等]、学会行事広報)
- 7) 研究会の実施(9月・11月を予定：理事会との同時開催、対面・オンライン併用を予定)
- 8) J-Stageによる学術情報発信
- 9) グループ研究助成の運用：新規2件
 - ① 大学での「観光心理学/観光行動学」科目の現状—内容と教授法—(研究代表者・屋宜智恵美氏[琉球大学])
 - ② 商業科目における生徒の資質・能力開発に効果的な

観光教育プログラムの研究—ケースメソッド教材の開発を事例に— (研究代表者・笠木秀樹氏 [宮崎産業経営大学])

- 10) 分科会制度の運用：JSTHE 観光コミュニケーション分科会，随時募集中
- 11) ウェブサイトの整備：リニューアル作業の完了・公開
- 12) メーリングリストの整備，会員への情報発信体制の強化
- 13) その他

【学会 SNS アカウント】

Facebook

<http://www.facebook.com/jsthe.org/>

Twitter

<http://x.com/JSTHEducators>



【新規事業委員会】

2024 年度グループ研究助成は，審査の結果，以下 2 件の研究を採択いたしました。

①研究テーマ：商業科目における生徒の資質・能力開発に効果的な観光教育プログラムの研究—ケースメソッド教材の開発を事例に—

採択者：笠木 秀樹(宮崎産業経営大学)氏ほか 3 名

②研究テーマ：大学での「観光心理学/観光行動論」科目の現状—内容と教授方法—

採択者：屋宜 智恵美(琉球大学)氏ほか 3 名

【広報委員会】

広報委員会では，学会公式ウェブサイトに加え，学会公式 Facebook ページ，学会公式 X を運営しています。本学会の活動や予定について，これらのメディアを活用して情報発信を行います。ぜひご活用ください。また，本学会では新規会員を募集中です。特に，観光ホスピタリティ教育に関心を寄せる大学院生と実務家の入会を促進しています。手続き等について詳しくは公式ウェブサイトをご覧ください。

観光・ホスピタリティに関連する学校や団体に向けて，本学会の全国大会や研究会，各種イベントの情報を配信しています。配信先となる学校・団体等がございましたら情報をお寄せください。

【編集人より】

ニューズレターでは，会員の皆さまから提供された観光ホスピタリティ教育の情報や書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は，原則として本学会会員が執筆した発行から 2 年以内の書籍(定期刊行物を除く)を扱います。ぜひ，情報を編集人までお寄せ下さい。

編集・発行人：米盛安奈 (大阪商業大学)

E-Mail : oshimaan@daishodai.ac.jp